

太子文庫だより

NO.3 令和元年 秋冬号 2019.11.27

紅葉の色も深くなり、自然の美しい変化を子どもたちと発見するのが楽しい時期になりました。さて、今回の太子文庫だよりで取り上げたのは昔話です。「昔、あるところに〇〇なおじいさんとおばあさんがおりました」という決まったフレーズは、時間、空間を超えた世界へと聞き手を誘ってくれる不思議な力をもっています。

さて、この昔話は人間の生きる世界に生じる普遍的な問題や困難に対する心の処し方、人々の願い等が誰にも分かりやすい形で表されています。また、そのストーリーの中にはその国や地域に根付いた価値観、考え方、道徳観などが凝縮した形になって表され、「生きる知恵」となって人々を支え続けてきました。

世界中にある昔話ですが、日本にも様々な昔話があります。その中でも、もうすぐ訪れる12月の年末を題材としている「かさじぞう」は、現在も多くの人に読み継がれている昔話の一つです。保護者のかたの中でもお話の内容が記憶に残っている方が多いお話かもしれません。かさじぞうの内容の大筋は次のような話です。

暮らしが貧しい中でも優しい心をもったおじいさんが、正月の餅を買うために笠を5つ作り街へ売りに行きます。ところが、米や魚は飛ぶように売れるのに、誰もおじいさんの笠を買う人はなく、おじいさんは仕方なく家に戻ります。帰り道、大雪に見舞われますが、気づくと道端には6体の地蔵さまが雪にさらされています。気の毒に思ったおじいさんは持ち帰った5つの笠を地蔵さまにかぶせ、最後の地蔵さまには自分の笠をかぶせます。家に帰り、おばあさんに笠が売れなかったことや帰りに地蔵さまにかぶせてきた話しをすると「まあ、それはよいことをしましたね。おもちなんて買えなくてもお湯と漬物でなんとかなります。お地蔵さんの役に立ったなら、売れるよりずっとありがたいことです」と喜び、床につきます。その夜、物音がするので外を見ると、お正月のおもちや、飾り物、ご馳走やお菓子が山のように積まれてお

り、帰って行く六地蔵さまの後ろ姿が見えるというお話です。

仏教ではこの世は六つの世界（地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上）に分けて存在していると考えられており、六つの世界に生きる者は誰もが苦しみや悲しみに触れずに生きることはできません。お地蔵さまはその六つの世界に存在するすべての者の苦しみを救ってくれる仏様といわれます。おばあさんがおじいさんの笠が売れなくても「お地蔵さまの役に立って良かった」と喜んだのは、苦しみから救ってくれるお地蔵さまに陰徳を積む（周囲の人にわからないところでも良い行いをする）ことは金銭を得るよりも価値のあることと考えられていたことが伺えます。そしてお地蔵さまもまた、そのような心もちで過ごすおじいさん、おばあさんの苦しみを救うべく、ご利益^{りやく}をもたらしたというお話です。

このお話から、目の前にある損得よりもどのような心もちで生きるのかが大切である事が、おじいさん、おばあさん、お地蔵さまのやりとりを通して感じるができます。

また、お話の内容を現代に照らして考えても、生活に不安を感じたり、仕事が順調にいかないなど、社会のなかで生きる人にとって普遍的に起こり得る問題をテーマとしており、こうした問題に対する心の対処の仕方の一つを示唆しているともいえるでしょう。

このように昔話には子どもが生きていくための心の力になるお話がたくさんあります。また、昔話は人々の暮らしに身近なものをテーマにしているものが多くあります。

冬休みにはぜひ、「かさじぞう」をお子さんと一緒に見て、新しい年を迎える準備をしたり、身近な仏様であるご近所のお地蔵さまを見つけてみてはいかがでしょうか。

絵本 Q&A

Q1 読んでほしいともってきた本が子どもにとって難しい内容の本の場合、それでも読んだ方が良いでしょうか

「読んで」というからにはその本の何かに興味を持ったということですからまずは開いて読んであげたらどうでしょうか。途中で興味を無くしたらその時点でやめれば良いと思います。全部が理解できなくても何か惹かれるものがあれば最後まで見続けるかもしれません。

12月に図書室に絵本 Q&A ポストを設置します。読み聞かせのことや絵本についてなど絵本 Q&A で聞いてみたいことがありましたら、ぜひメッセージを入れてください。次号から横山さんにお答えいただけます。

大人におすすめの本

タイトル 『子どもを本好きにする 50 の方法 + おすすめ本 300 冊』

作者・出版社 さくま ゆみこ:著 柏書房

みどころ 今子どもたちの周りには様々な映像や音声があります。豊富なメディアによっても子どもたちは知識を得、理解力を伸ばすことができます。しかし本を読むことでしか育くまれないものがあるのです。本は他のメディアでは取って代わることのできない、様々な力を子どもたちに与えてくれます。著者の豊富な経験から生まれた子どもを本好きにするための方法が 50 の項目に分けられて平易な言葉で語られています。一つ目から順を追って読まなくても興味ある項目から読み進めることができます。おすすめの本 300 冊は 29 のジャンルに分けて紹介されています。

絵本の紹介

椿組さんにおすすめの本

タイトル 『くまのコールテンくん』

作者・出版社 ドン・フリーマン:作・絵 松岡享子:訳 偕成社

みどころ デパートで売られているくまのぬいぐるみコールテンくんとお小遣いをはたいてそれを手に入れる女の子の心温まる交流が描かれていて幸せな気持ちになります。

タイトル 『しょうぼうじどうしゃ じふた』

作者・出版社 渡辺茂男:作 山本忠敬:絵 福音館書店

みどころ 最新のはしご車や高級車、救急車にいつもばかにされ、悲しい思いをしているちびっこ消防車のじふた。でもついにある日、出勤命令が出て皆に注目されるような大活躍をするチャンスがやってきました。

タイトル 『ペレのあたらしいふく』

作者・出版社 エルサ・ベスコフ:作・絵 おのでも ゆりこ:訳 福音館書店

みどころ 自分が育てた羊の毛を刈ってそれで服を作るなど、大ていの子どものために想像もできないことでしょう。ゆったりとした時間の流れの中で繰り広げられる物語が暖かみのある色調で描かれています。

